

戦略研究プロジェクト(Ⅱ)について

環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室

環境研究総合推進費(以下「推進費」という。)は、地球温暖化の防止、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保等、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施しています。

推進費は、環境省が環境行政を進めるうえで必要とする研究テーマ(以下「行政ニーズ」という。)を提示して公募を行い、広く産学民官の研究期間の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会の審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的研究資金です。環境省がトップダウン的に研究テーマや研究リーダー等の大枠を決めた上で、研究チームを競争的に選定するシステム(戦略的研究開発領域)を設けるなど、行政ニーズに立脚した戦略的な研究開発を強力に推進しています。

推進費は、昨今の環境問題を取り巻く状況の変化に対応し、今後更に環境政策への貢献を目指した制度とするために、平成30年度から、戦略的研究開発領域に従来のプロジェクトよりも小規模で短期間で終了する課題を対象とした「戦略研究プロジェクト(Ⅱ)」を新しく設置し、従来の戦略研究プロジェクトを「戦略研究プロジェクト(Ⅰ)」としました。

本稿では、新設した戦略研究プロジェクト(Ⅱ)の概

要及び平成30年度から開始した3件の戦略研究プロジェクト(Ⅱ)を紹介します。

1. 戦略研究プロジェクト(Ⅱ)の概要

戦略研究プロジェクト(Ⅱ)は、我が国が国際的に先駆けて又は国内外の情勢を踏まえて、特に短期間(3年間以内)で重点的に進めるべき中規模の研究プロジェクトです。以下、戦略研究プロジェクト(Ⅰ)との違いに触れつつ、概要を紹介します。

1.1 公募対象

戦略研究プロジェクト(Ⅰ)と(Ⅱ)共に、あらかじめ環境省が研究プロジェクトの大枠として戦略研究テーマを提示し、その戦略研究テーマを構成するにふさわしい研究課題を公募しています。採択された研究課題は、戦略研究プロジェクトを構成するテーマに属するサブテーマとなります(図参照)。

ただし、戦略研究プロジェクト(Ⅱ)は、1プロジェクトあたり3テーマ以内で構成されます(2で紹介するSⅡ-1, SⅡ-2, SⅡ-3はそれぞれ3つの戦略研究テーマで構成されています。戦略研究テーマを構成するサブテーマの数に規定はありません)。戦略研究プロジェクト(Ⅰ)は、1プロジェクトを構成する戦略研究テーマの数、サブテーマの数に規定はありません。

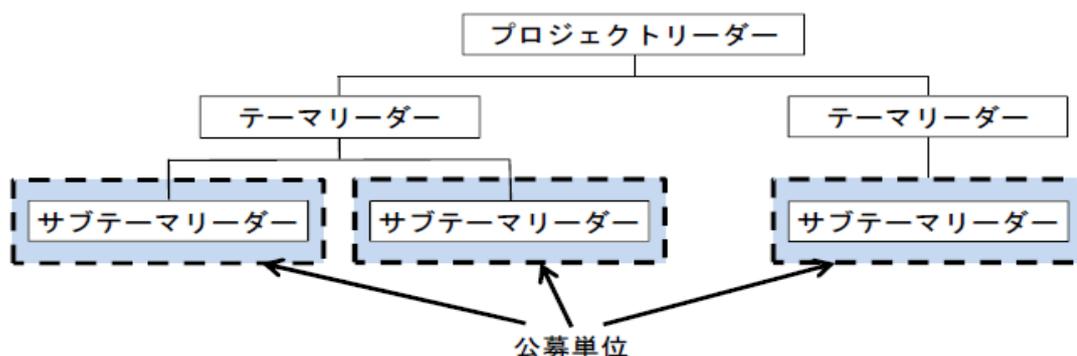


図 戦略研究プロジェクト(Ⅰ)及び(Ⅱ)の体制図(例)

1.2 研究期間

3年間以内

(戦略研究プロジェクト(Ⅰ)は5年間以内。また、戦略研究プロジェクト(Ⅰ)の実現可能性を事前調査するため、1-2年間のFS(フィジビリティスタディ)研究を行う。)

1.3 年間研究費(間接経費を含む)

年間約1億円以内

(戦略研究プロジェクト(Ⅰ)は年間3億円以内)

上記のように、戦略研究プロジェクト(Ⅰ)と(Ⅱ)では、戦略研究テーマ数の上限、研究期間、年間研究費の違いがあります。

2. 平成30年度から開始した3件の戦略研究プロジェクト(Ⅱ)

平成30年度から開始した3件の戦略研究プロジェクト(Ⅱ)の詳細は表1~3のとおり。

表1 戦略研究プロジェクト(SⅡ-1)

課題番号	SⅡ-1
課題名	希少鳥類保全のためのサーベイランスシステムの開発及び鳥インフルエンザ等による希少鳥類の減少リスクの評価並びにその対策に関する研究
研究予算	年間約1億円
研究期間	3年間(平成30-32年度)
戦略研究テーマ	テーマ1:希少鳥類の保全のための総合的リスク評価手法の開発と社会実装 テーマ2:希少鳥類における鳥インフルエンザウイルス感染対策の確立 テーマ3:希少鳥類に免疫抑制を引き起こす鉛汚染の実態把握及び鳥インフルエンザ発生との関連性解明
研究の全体目標	希少鳥類の新たな脅威となる高病原性鳥インフルエンザ及び免疫抑制を引き起こす低濃度の鉛汚染との複合的な影響も踏まえた総合的なリスク評価手法を開発するとともに、希少鳥類の保全対策の推進に貢献する。 ・総合的なリスク評価手法の開発により、日本における高病原性鳥インフルエンザモニタリングの実施、監視による迅速な対策の推進、鉛汚染のリスク評価を踏まえた本州以南の鉛弾規制の強化に寄与する。

表2 戦略研究プロジェクト(SⅡ-2)

課題番号	SⅡ-2
課題名	海洋プラスチックごみに係る動態・環境影響の体系的解明と計測手法の高度化に係る研究
研究予算	年間約1億円
研究期間	3年間(平成30-32年度)
戦略研究テーマ	テーマ1:海洋プラスチックごみの沿岸～地球規模での海洋中の分布状況及び動態に関する実態把握及びモデル化 テーマ2:海洋プラスチックごみ及びその含有化学物質による生態影響評価 テーマ3:海洋プラスチックごみのモニタリング・計測手法等の高度化
研究の全体目標	全球プラスチック循環モデルを構築し、二世帯程度(～50年程度)将来のマイクロプラスチック浮遊量を推算する。これを参照しつつ、環境影響(ここでは主として、海洋生態系への影響)評価を実施する。モデルの精度検証や今後のモニタリングの高度化・加速化を可能とする、海洋プラスチックごみをモニタリング・計測する標準的な手法を提示する。

表3 戦略研究プロジェクト(SⅡ-3)

課題番号	SⅡ-3
課題名	PCB を含む残留性有機汚染物質(POPs)の循環・廃棄過程の管理方策に関する統合的研究
研究予算	年間約1億円
研究期間	3年間(平成30-32年度)
戦略研究テーマ	<p>テーマ1:新規POPsの物理化学特性把握に関わる基礎および応用研究</p> <p>テーマ2:PCB・POPsに関する時系列評価と環境管理方策に資する分析化学的研究</p> <p>テーマ3:PCB・POPsの処理の効果推定と環境管理に関するシステム研究</p>
研究の全体目標	<ul style="list-style-type: none"> PCB, POPsに関する処理状況を把握し、環境動態の経年変化等を把握することで、環境負荷に関する処理の効果や抑制の程度に関する知見を獲得、将来の方向性を議論する。 PCB, POPsの性状や環境情報を獲得して、廃棄物及び社会滞留物の処理及び汚染の低減に資する政策立案のための基礎情報を提供し、場面によっては提言を行う。 有機ハロゲン化合物に関する学術的な国際会議やストックホルム条約・バーゼル条約締約国会議等で積極的に成果を発信できる成果を得ることで、国際貢献を行う。

表の戦略研究プロジェクト3件等、推進費の平成30年度実施課題については、順次以下の推進費のHPで公開していく予定です。

<推進費 HP>

<https://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/gaiyou/index.html>

本稿で紹介した3件の戦略研究プロジェクト(Ⅱ)のサブテーマについて、地方環境研究所からの応募はありませんでしたが、同じく平成30年度から開始された戦略研究プロジェクト(Ⅰ)でS-17「災害・事故に起因する化学物質リスクの評価・管理手法の体系的構築に関する研究」のサブテーマの中には、地方環境研究所の研究者が研究代表者となっているものもあります。戦略研究プロジェクト(Ⅱ)につきましても、積極的なご応募をいただければ幸いです。